

2-1 多摩市の概要（3月22日更新）

市制施行 50 周年を迎える多摩市は、緑豊かで商業施設の賑わいもあり、歩車分離をはじめ暮らしやすさの工夫に富む人口 148,380 人（令和 3 年 2 月 1 日現在）の都市です。我が国の多くの都市にみられる少子高齢社会の急速な進展に伴う人口減少問題をはじめ、多摩市においても次代に向けた住みよい地域づくりのための施策が重要な課題と位置づけられています。

多摩市は昭和 61 年より長野県富士見町と友好都市提携を結び、クリスマス時期に多摩センター駅前パルテノン通りに飾られるモミの木は交流として寄贈されているとおりです。また、全国の自治体で初めてとなるアイスランド共和国のホストタウンである点も多摩市の大きな特徴の 1 つです。

令和元年 6 月、多摩市最上位の計画「第五次多摩市総合計画第 3 期基本計画」が策定され、多摩市で推進されている「健幸まちづくり」をさらに高めていき、「超高齢社会への挑戦」、「若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり」、及び「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」が重点取組み課題とされています。以上に対応づけられた地域政策の 1 つが、地域自治形成に向けた（仮称）地域委員会構想です。

多摩市は聖蹟桜ヶ丘、永山、多摩センター、唐木田の 4 駅から都心方面、あるいは八王子、高尾、橋本、立川方面への鉄道・モノレールアクセスを有しています。また、豊富なバス路線により、市内はもとより近郊では豊田、国立、稲城、相模原、町田方面への路線に加え、羽田空港や成田空港への空

港リムジンバスの運行も充実しています。ピンクとブルーのサンリオラッピングバスは両空港出発口・到着口において、世代を問わず多くの空港利用客の注目の的となっています。



サンリオラッピングバス（1号）

多摩市は、他の都市のように長い歴史を持つエリアと、ニュータウンエリアの双方を有します。

地域の特性のみならず、多摩市は地理的特性も、川沿いの平地、丘の上の住宅街と多様です。